



外国人の訪問先、「新宿」が3年連続でトップ ～ JNTO訪日外客実態調査2006-2007 訪問地調査編 発行～



国際観光振興機構（JNTO）は、この度、外国人旅行者の実態や国内の訪問地などをまとめた「JNTO訪日外客実態調査2006-2007 訪問地調査編」を発行した。外国人旅行者全体の都市・観光地別訪問率ランキングでは、1位新宿（26.7%）、2位大阪市（21.4%）、3位京都市（20.1%）、4位銀座（15.2%）、5位渋谷（14.7%）と、新宿が3年連続でトップになった。JNTOはその要因として、新宿は宿泊施設が充実しているため外国人旅行者の宿泊も比較的多く、独特の街の雰囲気に加え、ショッピングの魅力を求めて多くの外国人観光客が訪れるため、とみている。

なお、主な市場別の特徴は以下の通りである；

- <韓国> 東京都内、東京周辺、関西の観光地のほかに、福岡市、別府、阿蘇山、熊本市といった九州の観光地が上位を占める。
- <台湾> 大阪市（22.1%）と新宿（22.1%）が1位。大阪市は3年連続でトップ。また、東北や北陸の伸びが著しく、札幌・定山溪、小樽といった北海道の観光地もランキングの上位にあがっている。
- <中国> 1位大阪市（40.4%）、2位京都市（30.2%）の訪問率が非常に高く、箱根や富士山といったゴールデンルート上の観光地の訪問率が高い。
- <香港> 1位新宿（42.5%）の訪問率が非常に高く、東京ディズニーリゾートの訪問率も他市場と比べて高い。また、札幌・定山溪、小樽、富良野といった北海道の観光地がランキングの上位にあがっている。
- <米国> 東京都内、京都市、大阪市、名古屋といった大都市、産業都市に加えて、広島市、奈良市、鎌倉等日本の伝統文化を鑑賞できる観光地が上位を占める。
- <英国> 新宿が前年度1位の銀座を抜いてトップとなった。東京都内の観光地の多くが上位を占める。

注：訪問率 = 「今回の旅行中に当該地を訪問した」と答えた回答者数 ÷ 全回答者数（N）× 100

「JNTO訪日外客実態調査2006-2007<訪問地調査編>」

本資料では、外国人旅行者の実態が主要市場別に幅広く収集・分析されている。今版では、観光客のリピーターに関する分析を充実させたほか、報告書の総括部分において、ビジット・ジャパン・キャンペーン重点市場の訪日旅行者の動向の分析を、各種図表を用いて行った。A4 サイズ（251 頁）、¥9,000。

販売（2008年2/8より）：（財）国際観光サービスセンター（電話：03-3233-3301）

その他、政府刊行物サービス・センター、大型書店などでも購入可能

性別 都市・観光地別 訪問率ランキング

男女ともに、1位新宿、2位大阪市、3位京都市。

特に男性に人気にある訪問地は、秋葉原（男性8位：10.8%、女性24位：5.5%）、女性に人気のあるのは、東京ディズニーリゾート（男性18位：6.2%、女性8位：11.2%）、箱根（男性17位：6.5%、女性13位：9.0%）。

全 体								
全 体(N=13,891)			男 性(N=8,152)			女 性(N=5,611)		
順位	地域名	訪問率 (%)	順位	地域名	訪問率 (%)	順位	地域名	訪問率 (%)
1	新宿	26.7	1	新宿	25.4	1	新宿	28.7
2	大阪市	21.4	2	大阪市	20.3	2	大阪市	22.9
3	京都市	20.1	3	京都市	18.5	3	京都市	22.4
4	銀座	15.2	4	銀座	14.8	4	渋谷	16.8
5	渋谷	14.7	5	渋谷	13.3	5	銀座	15.9
6	浅草	12.9	6	浅草	11.8	6	浅草	14.5
7	その他23区	11.5		その他23区	11.8	7	原宿	13.1
8	原宿	9.8	8	秋葉原	10.8	8	TDR	11.2
9	横浜	9.7	9	横浜	9.9	9	お台場	11.1
10	上野	9.6	10	上野	9.3		その他23区	11.1
11	お台場	9.3	11	名古屋	9.2	11	上野	10.0
12	秋葉原	8.6	12	六本木	8.3	12	横浜	9.5
13	名古屋	8.5	13	お台場	8.1	13	箱根	9.0
14	福岡市	8.4	14	福岡市	8.0		福岡市	9.0
15	TDR	8.2	15	原宿	7.6	15	名古屋	7.5
16	六本木	7.9	16	品川	6.8	16	六本木	7.2
17	箱根	7.5	17	箱根	6.5	17	奈良市	7.1
18	成田市	6.5	18	TDR	6.2	18	成田市	7.0
19	品川	5.9	19	成田市	6.1	19	札幌・定山溪	6.3
	奈良市	5.9	20	東京都不明	5.9	20	池袋	6.2

居住国別 都市・観光地別 訪問率ランキング

韓国 (N=3,486)		
順位	地域名	訪問率(%)
1	新宿	30.4
2	大阪市	22.8
3	福岡市	16.6
4	お台場	15.9
5	渋谷	15.7
6	原宿	14.5
7	京都市	13.5
8	その他23区	12.4
9	上野	9.0
10	浅草	8.9
11	銀座	8.7
12	別府	7.9
13	横浜	7.1
	箱根	7.1
15	阿蘇山	6.4
16	神戸	6.3
17	奈良市	6.2
18	TDR	6.1
19	熊本市	6.0
20	秋葉原	5.9

台湾 (N=2,552)		
順位	地域名	訪問率(%)
1	大阪市	22.1
	新宿	22.1
3	TDR	14.8
4	京都市	14.7
5	お台場	10.3
6	浅草	9.9
7	名古屋	9.6
8	その他23区	9.1
	横浜	9.1
10	札幌・定山溪	9.0
11	箱根	8.2
12	福岡市	7.9
13	成田市	7.5
14	渋谷	7.1
15	上野	6.9
16	東京都不明	6.7
	神戸	6.7
18	原宿	6.2
19	東京都その他	5.8
20	小樽	5.6
	銀座	5.6

中国 (N=1,134)		
順位	地域名	訪問率(%)
1	大阪市	40.4
2	京都市	30.2
3	新宿	21.0
4	その他23区	16.9
5	名古屋	16.8
6	横浜	16.2
7	銀座	16.0
8	箱根	15.7
9	東京都不明	13.4
10	TDR	13.2
11	秋葉原	12.6
12	成田市	10.4
13	富士山	10.1
14	浅草	10.0
15	皇居	9.3
16	上野	7.8
17	東京都その他	7.5
18	神戸	6.7
19	福岡市	5.8
20	品川	5.2

香港 (N=746)		
順位	地域名	訪問率(%)
1	新宿	42.5
2	銀座	21.4
3	TDR	19.2
4	大阪市	18.6
5	渋谷	16.9
6	札幌・定山溪	16.6
7	原宿	15.8
8	池袋	15.0
9	上野	13.1
10	小樽	11.0
11	京都市	10.9
12	富士山	9.1
13	浅草	8.7
14	横浜	7.8
15	お台場	7.6
16	秋葉原	7.0
17	名古屋	6.4
18	六本木	6.3
19	富良野	5.8
20	東京都その他	5.5

米国 (N=1,746)		
順位	地域名	訪問率(%)
1	新宿	22.3
2	京都市	21.9
3	銀座	21.2
4	渋谷	15.7
5	浅草	14.7
6	大阪市	14.4
7	六本木	14.3
8	その他23区	10.7
9	横浜	10.5
10	上野	8.4
11	皇居	8.1
12	赤坂	7.5
	名古屋	7.5
14	秋葉原	7.4
	品川	7.4
16	原宿	7.3
17	広島市	6.7
18	成田市	6.5
	奈良市	6.5
20	鎌倉	5.6

英国 (N=566)		
順位	地域名	訪問率(%)
1	新宿	27.6
2	京都市	26.7
3	銀座	26.1
4	渋谷	22.8
5	浅草	17.5
6	六本木	15.4
7	大阪市	13.6
8	その他23区	12.0
9	秋葉原	11.3
10	上野	10.8
11	原宿	9.9
12	皇居	9.7
13	横浜	9.5
14	東京タワー	9.0
15	港区その他	8.8
	広島市	8.8
17	成田市	8.5
18	品川	8.3
19	奈良市	8.1
20	赤坂	7.4
	名古屋	7.4

< 調査概要 >

目的 : 訪日外国人旅行者の実態の把握

調査対象 : 日本旅行を終え、出国直前の、滞在期間が2日以上90日以下の外国人旅行者

調査方法 : 外国語能力を備えた調査員によるインタビュー調査

調査場所 : 9空港(新千歳、仙台、成田、羽田、中部、関西、福岡、那覇の各国際空港及び博多港)の出国待合室
上記空港で、出国者の約90%をカバー

調査時期 : 夏(2006年7月~8月)、秋(2006年10~11月)、冬(2007年2月~3月)

調査内容 : 旅行者の属性(国籍、居住地、性・年齢別構成)、旅行者の国内訪問実態、宿泊日数、訪日目的、訪日動機、旅行形態、訪日回数等

サンプル数: 13,891 (韓国3,486、台湾2,552、中国1,134、香港746、米国1,746、英国566 その他 3,661)

ほか、本調査結果のハイライトに関しましては以下 JNTO のサイトをご参照下さい。

報道発表(2007.9.28)「外国人観光客の訪日動機のトップは「ショッピング」

http://www.jnto.go.jp/jpn/press_releases/070928_houmonchi.html



J N T O 訪日外客実態調査 2006-2007
(外国人旅行者の国内訪問地データ)
調査結果速報



平成19年9月28日

独立行政法人
国際観光振興機構(JNTO)

問い合わせ先：

国際観光振興機構（JNTO）事業開発部

電話：03-3216-1905

FAX：03-3216-6026

調査概要

- 目的 : 訪日外国人旅行者の実態の把握
- 調査対象 : 日本旅行を終え、出国直前の、滞在期間が2日以上90日以下の外国人旅行者
- 調査方法 : 外国語能力を備えた調査員によるインタビュー調査
- 調査場所 : 9空海港(新千歳、仙台、成田、羽田、中部、関西、福岡、那覇の各国際空港及び博多港)の出国待合室
上記空海港で、出国者の約90%をカバー
- 調査時期 : 夏(2006年7月～8月)、秋(2006年10～11月)、冬(2007年2月～3月)
- 調査内容 : 旅行者の属性(国籍、居住地、性・年齢別構成)
旅行者の国内訪問実態(都道府県別、都市・観光地別訪問率)、
宿泊日数
旅行者の訪日目的(観光、商用、親族友人訪問等)
旅行者の訪日動機(日本に対する興味)、訪日回数
旅行者の旅行形態 等

サンプル数: 13,891

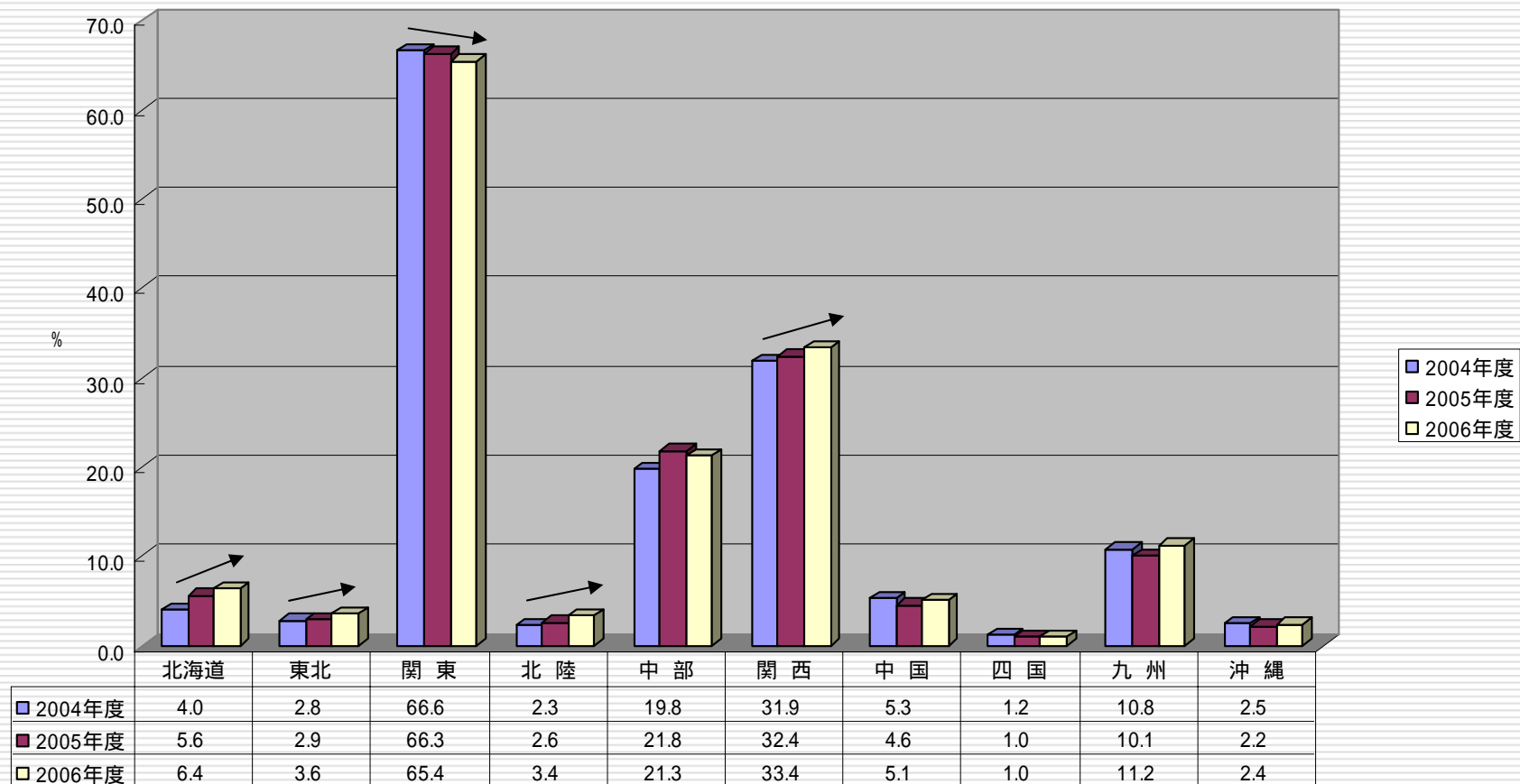
居住地別内訳: 韓国 3,486、台湾 2,552、中国 1,134、香港 746、米国 1,746
英国 566 その他 3,661

全体傾向

ブロック別訪問率 – 地方の訪問率が増加傾向

図表1 【ブロック別訪問率の推移】

• ブロック別に見ると、関東がやや減少気味であるのに対し、北海道・東北・北陸・関西など地方の訪問率が増加傾向にある。



全体傾向

都道府県別訪問地 - 東京、大阪、京都、神奈川、千葉がトップ5

図表2 【都道府県別訪問率の推移】

•1位から9位の順位は3年間変わらず。商用客と初訪日の観光客が多く訪れる大都市圏が上位を占める。

2002年度 訪日外客数 5,314,590 人	2003年度 訪日外客数 5,354,026 人	2004年度 訪日外客数 6,286,654 人	2005年度 訪日外客数 6,841,245 人	2006年度 訪日外客数 7,561,195 人										
平成14年度(N=7,602) 2002-2003	平成15年度(N=4,829) 2003-2004	平成16年度(N=10,660) 2004-2005	平成17年度(N=12,232) 2005-2006	平成18年度(N=13,891) 2006-2007										
順位	都道府県	訪問率 (%)	順位	都道府県	訪問率 (%)	順位	都道府県	訪問率 (%)	順位	都道府県	訪問率 (%)	順位	都道府県	訪問率 (%)
1	東京	52.7	1	東京	54.5	1	東京	58.2	1	東京	58.5	1	東京	57.4
2	大阪	27.8	2	大阪	27.0	2	大阪	21.6	2	大阪	22.6	2	大阪	23.7
3	神奈川	15.6	3	神奈川	15.8	3	京都	17.4	3	京都	19.1	3	京都	20.3
4	京都	14.7	4	京都	15.2	4	神奈川	16.4	4	神奈川	18.9	4	神奈川	18.8
5	千葉	13.2	5	千葉	12.1	5	千葉	13.0	5	千葉	15.4	5	千葉	16.7
6	愛知	11.2	6	愛知	9.7	6	愛知	9.6	6	愛知	11.9	6	愛知	9.6
7	北海道	9.1	7	兵庫	7.1	7	福岡	8.2	7	福岡	7.4	7	福岡	8.7
8	福岡	7.0	8	北海道	5.2	8	兵庫	6.2	8	兵庫	6.9	8	兵庫	7.4
9	兵庫	5.8		福岡	5.2	9	山梨	4.9	9	山梨	5.8	9	山梨	6.6
10	奈良	5.2	10	奈良	5.0	10	奈良	4.8	10	北海道	5.6	10	北海道	6.4
11	山梨	4.7	11	山梨	3.7	11	広島	4.1	11	奈良	4.9	11	奈良	6.1
12	静岡	3.9	12	静岡	3.3	12	北海道	4.0	12	静岡	3.6	12	長崎	4.3
13	沖縄	3.6	13	栃木	2.7	13	栃木	3.5		長崎	3.6	13	栃木	4.2
14	広島	3.2	14	沖縄	2.5	14	静岡	3.4	14	栃木	3.5	14	大分	4.0
15	栃木	2.7	15	埼玉	2.3		長崎	3.4		広島	3.5		広島	4.0
	長崎	2.7	16	広島	2.2	16	熊本	3.0	16	熊本	3.0	16	静岡	3.7
17	大分	2.4		大分	2.2	17	大分	2.7	17	大分	2.9	17	熊本	3.6
18	熊本	2.2	18	長崎	2.1	18	長野	2.6	18	沖縄	2.2	18	長野	2.7
19	埼玉	2.1		熊本	2.1	19	沖縄	2.5	19	埼玉	2.0	19	岐阜	2.5
20	長野	2.0	20	茨城	1.7	20	埼玉	2.1		長野	2.0	20	沖縄	2.4
				長野	1.7									
延べ訪問率 Total 210.7			延べ訪問率 Total 198.2			延べ訪問率 Total 209.0			延べ訪問率 Total 220.7			延べ訪問率 Total 235.7		

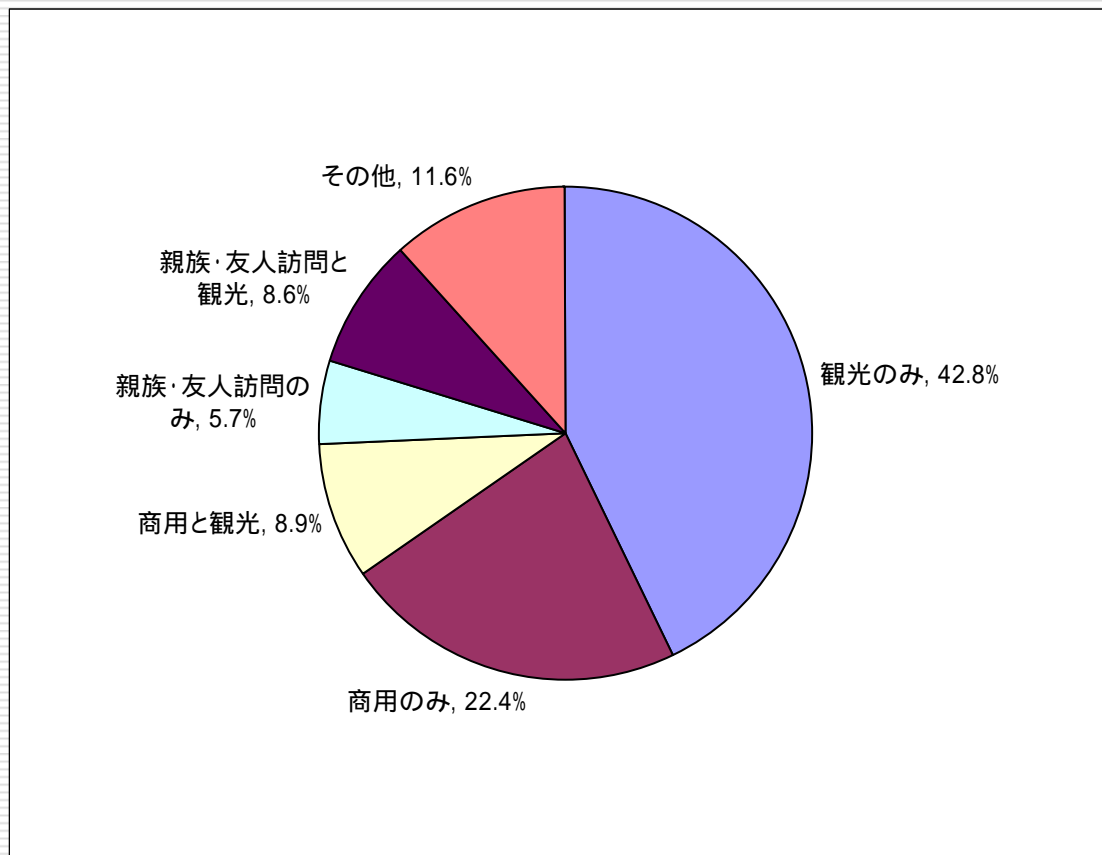
- 注1： 訪日外国人旅行者の全体の数は年々増加しているため、訪問率が減少したとしても、当該地を訪問している旅行者の実数が減少しているとは限らない。
- 注2： 2003年度はSARSの影響により、秋季と冬季の2回のみ調査を行った。
- 注3： 延べ訪問率 = 各都道府県への訪問率を足し合わせた数値

全体傾向

訪日目的 — 観光客が4割以上

図表3 【訪日目的】

• 観光目的の訪日旅行者が42.8%と、商用(22.4%)、親族・友人訪問(5.7%)等を大きく上回る結果となった。

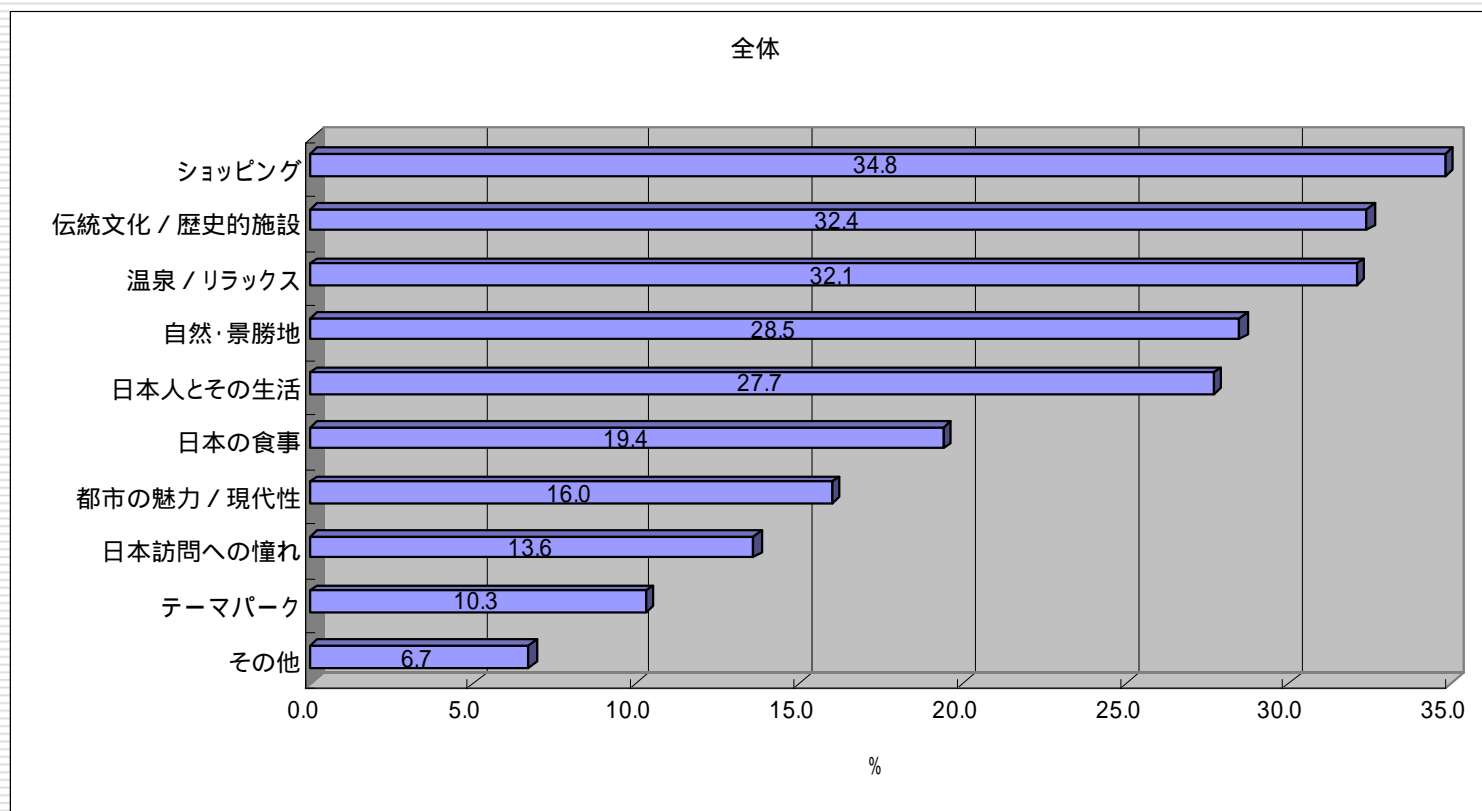


観光客の動向

訪日動機(観光客) - 「ショッピング」が34.8%で1位

- 全体傾向としては、「ショッピング」が、前年度1位の「伝統文化/歴史的施設」、2位の「温泉/リラックス」を抜いて1位となった。
- アジアは「温泉・リラクゼーション」「ショッピング」に対する関心が高く、米国・英国は「伝統文化・歴史的施設」「日本人とその生活」の比率が高い。
- 台湾・中国は「自然・景勝地」への関心も高く、香港は「ショッピング」の比率が極めて高い。

図表4 【訪日動機】(観光客)



最大3つまで選択可能な複数回答

観光客の動向

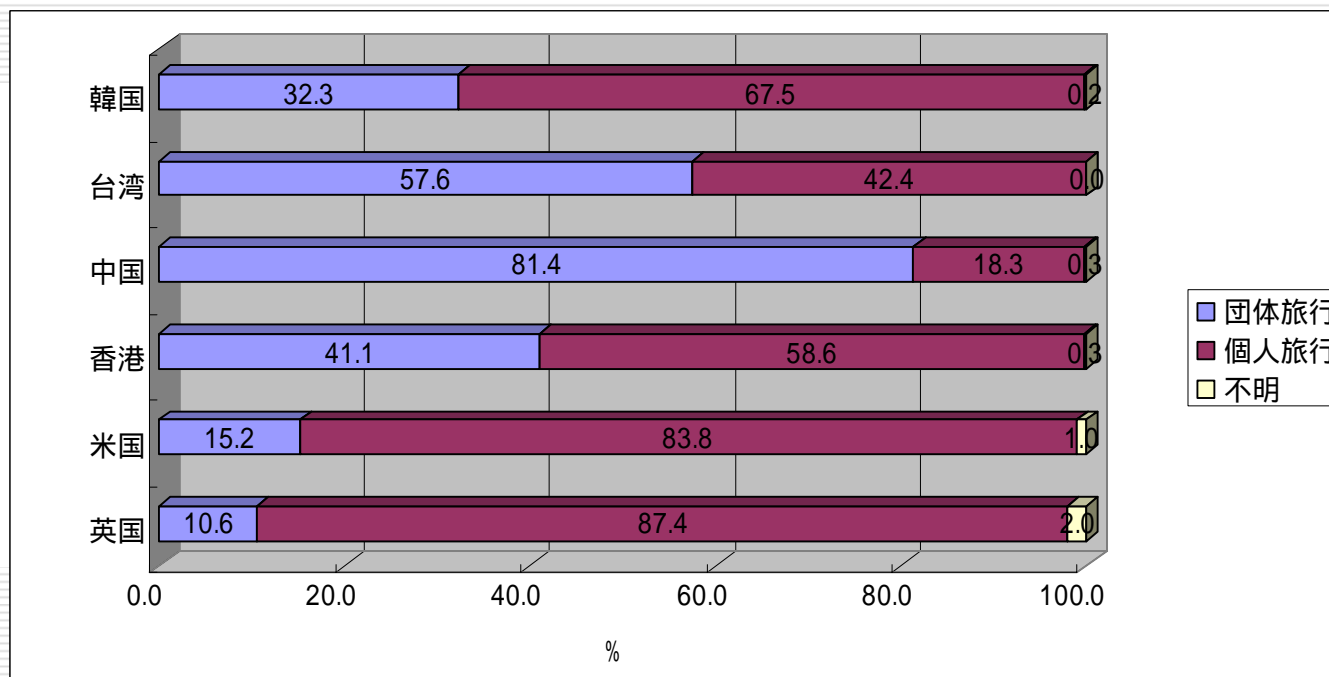
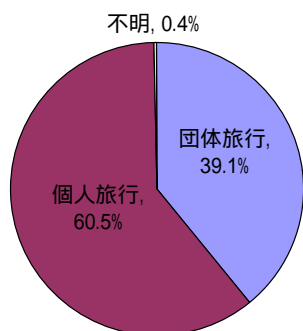
旅行形態(観光客)

- 個人旅行が全体の60.5%を占め、団体旅行の1.5倍

• 観光客では、団体旅行39.1%、個人旅行60.5%となり、2対3の割合で個人旅行が多い。米国・英国の観光客の個人旅行比率は8~9割で極めて高く、これに対し中国・台湾は、団体旅行の比率が6割~8割と、比較的割合が高い。

図表6 【訪日形態】(観光客/市場別)

図表5 【訪日形態】(観光客/全体)

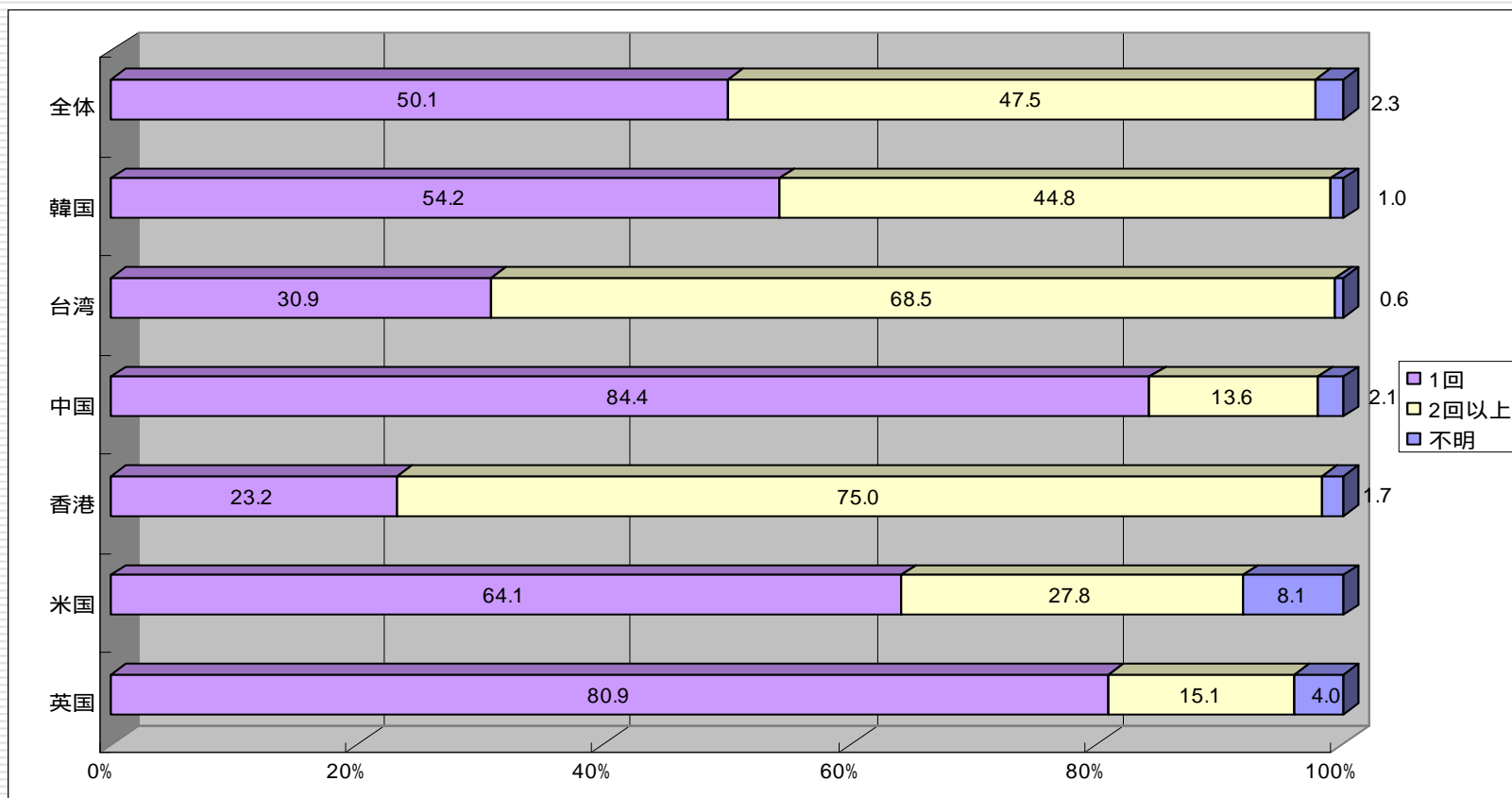


観光客の動向

訪日回数(観光客) - リピーターが半数

図表7 【訪日旅行回数】(観光客)

- 全体のリピーター率は47.5%
- 初訪日者の比率が高いのは、中国(84.4%)、英国(80.9%)で、リピーターの比率が高いのは、香港(75.0%)、台湾(68.5%)である。

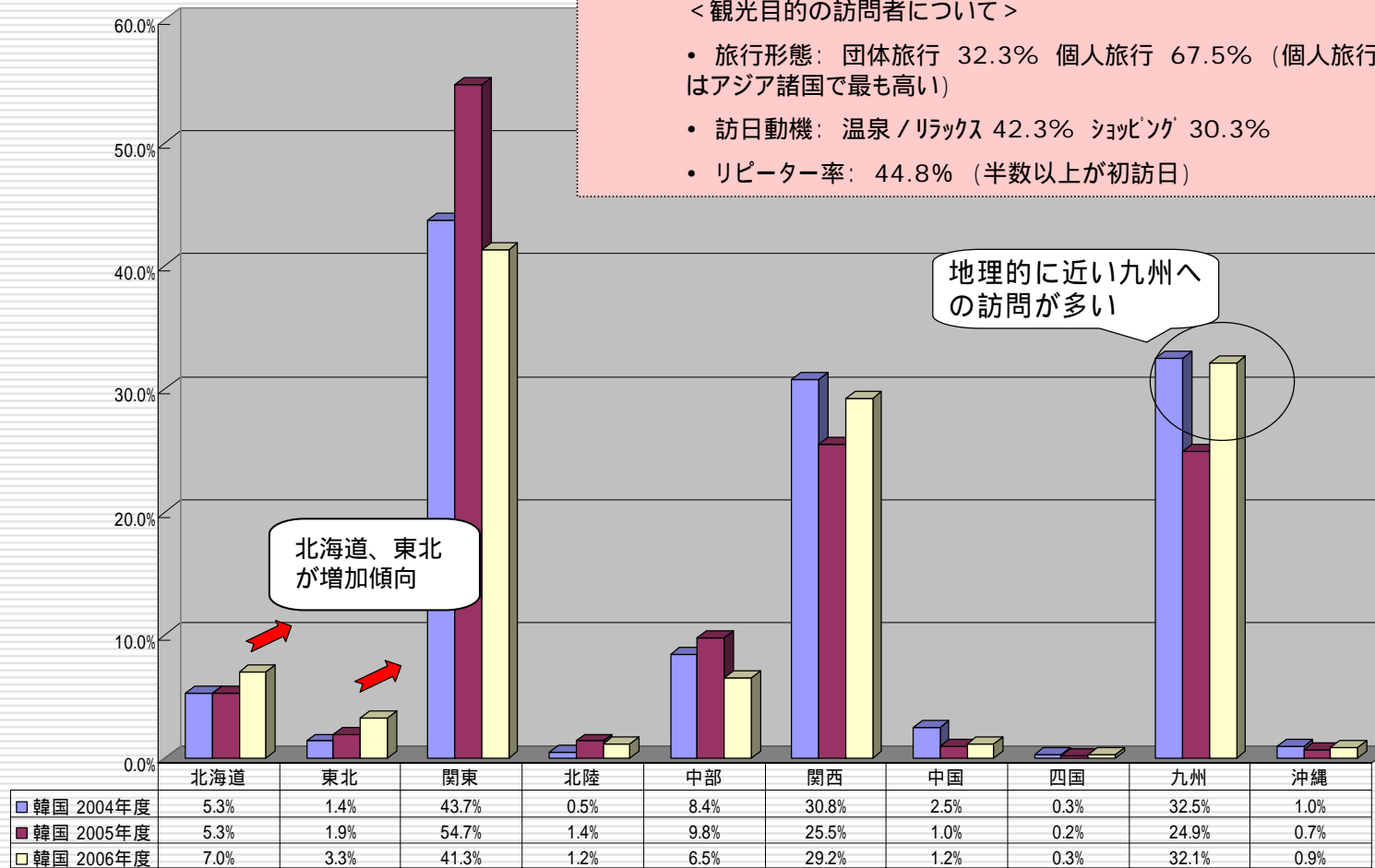


今回観光の目的で訪日した観光客を対象とし、これまで観光目的で訪日した回数を集計

観光客の動向 韓国 – 半数が初訪日 九州への訪問率が高い

図表8 【ブロック別訪問率の推移】(韓国・観光客)

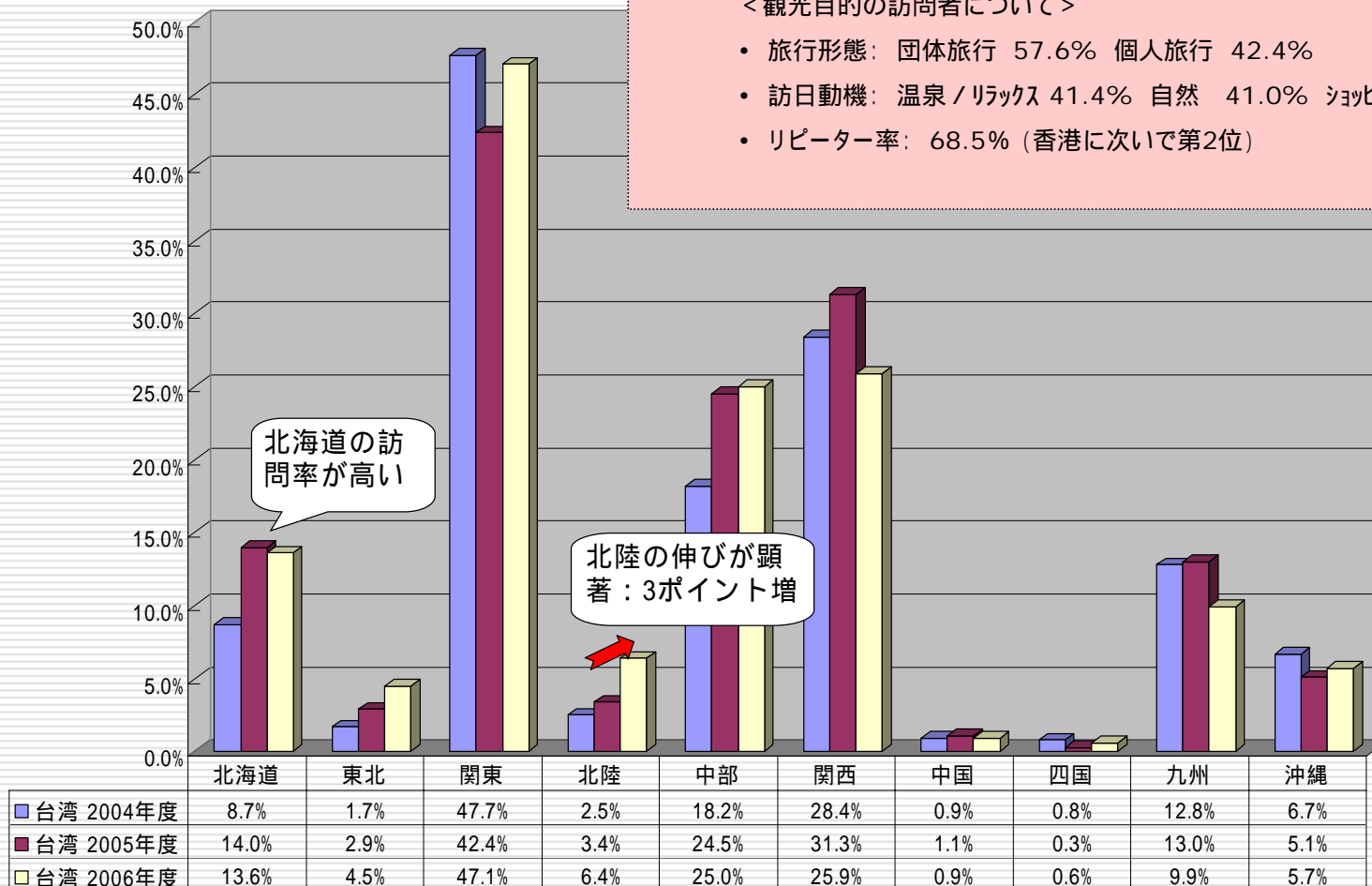
- 旅行目的: 観光 45.8% 商用 19.3% 親族友人訪問 5.8%
- < 観光目的の訪問者について >
- 旅行形態: 団体旅行 32.3% 個人旅行 67.5% (個人旅行比率はアジア諸国で最も高い)
- 訪日動機: 温泉/リラックス 42.3% ショッピング 30.3%
- リピーター率: 44.8% (半数以上が初訪日)



観光客の動向 台湾 – リピーターが7割の成熟市場 地方への訪問率も高い

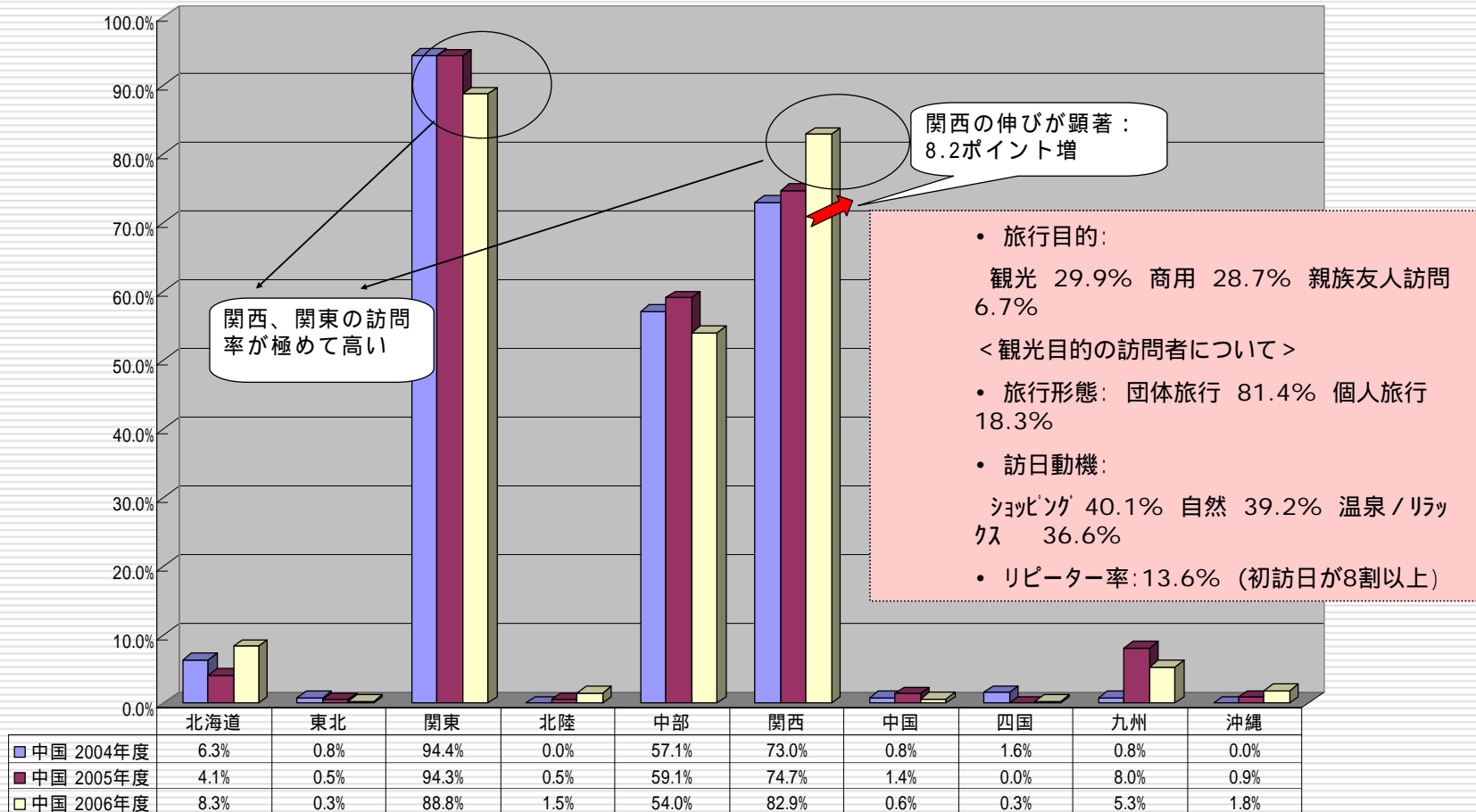
図表9 【ブロック別訪問率の推移】(台湾・観光客)

- 旅行目的: 観光 67.9% 商用 11.0% 親族友人訪問 2.7%
- <観光目的の訪問者について>
- 旅行形態: 団体旅行 57.6% 個人旅行 42.4%
- 訪日動機: 温泉/リラックス 41.4% 自然 41.0% ショッピング 40.0%
- リピーター率: 68.5% (香港に次いで第2位)



観光客の動向 中国 – 初訪日が8割 関東から関西に至る「ゴールデンルート」に訪問が集中

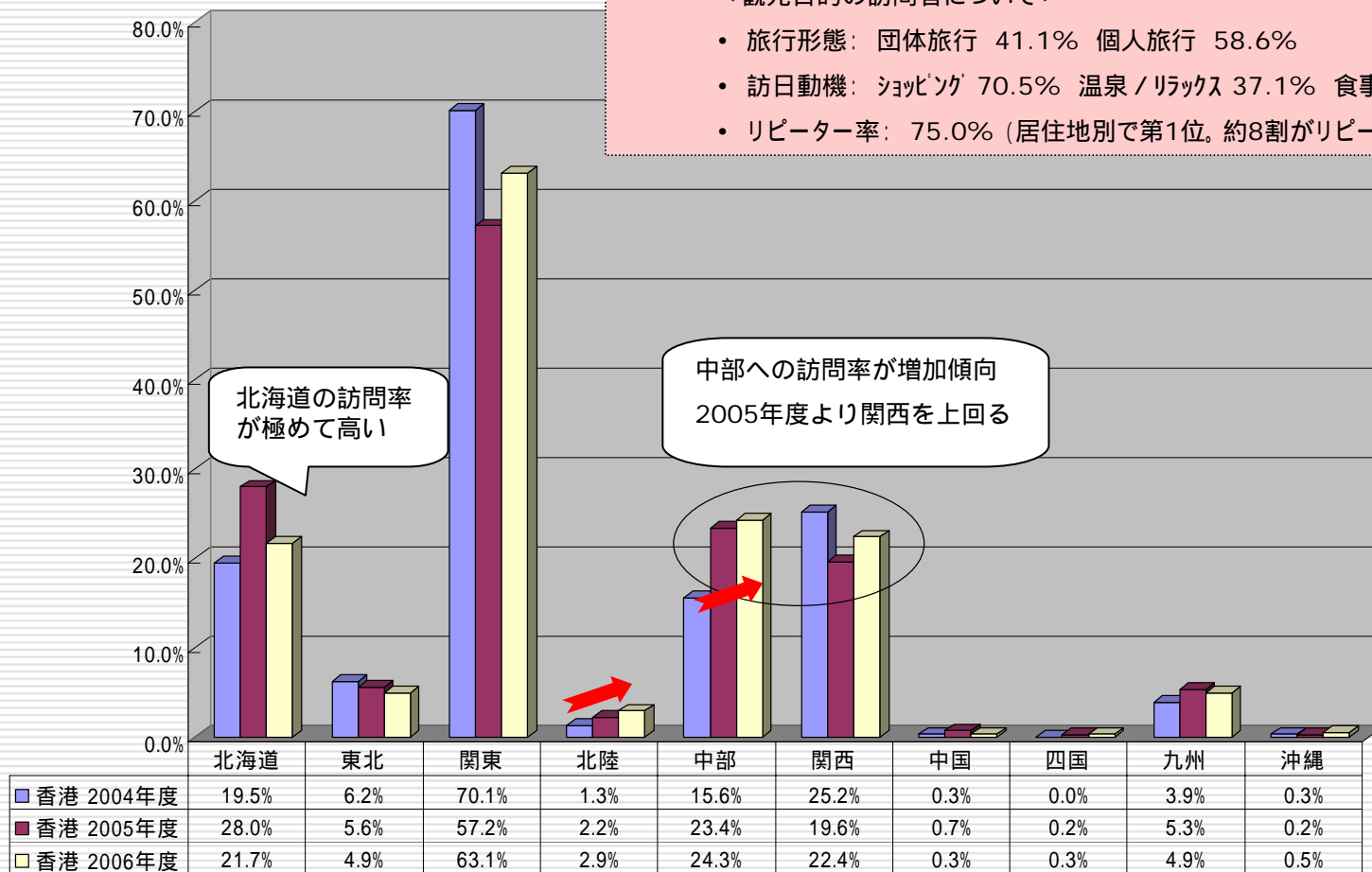
図表10 【ブロック別訪問率の推移】(中国・観光客)



観光客の動向 香港 – 8割がリピーター 北海道の訪問率が極めて高い

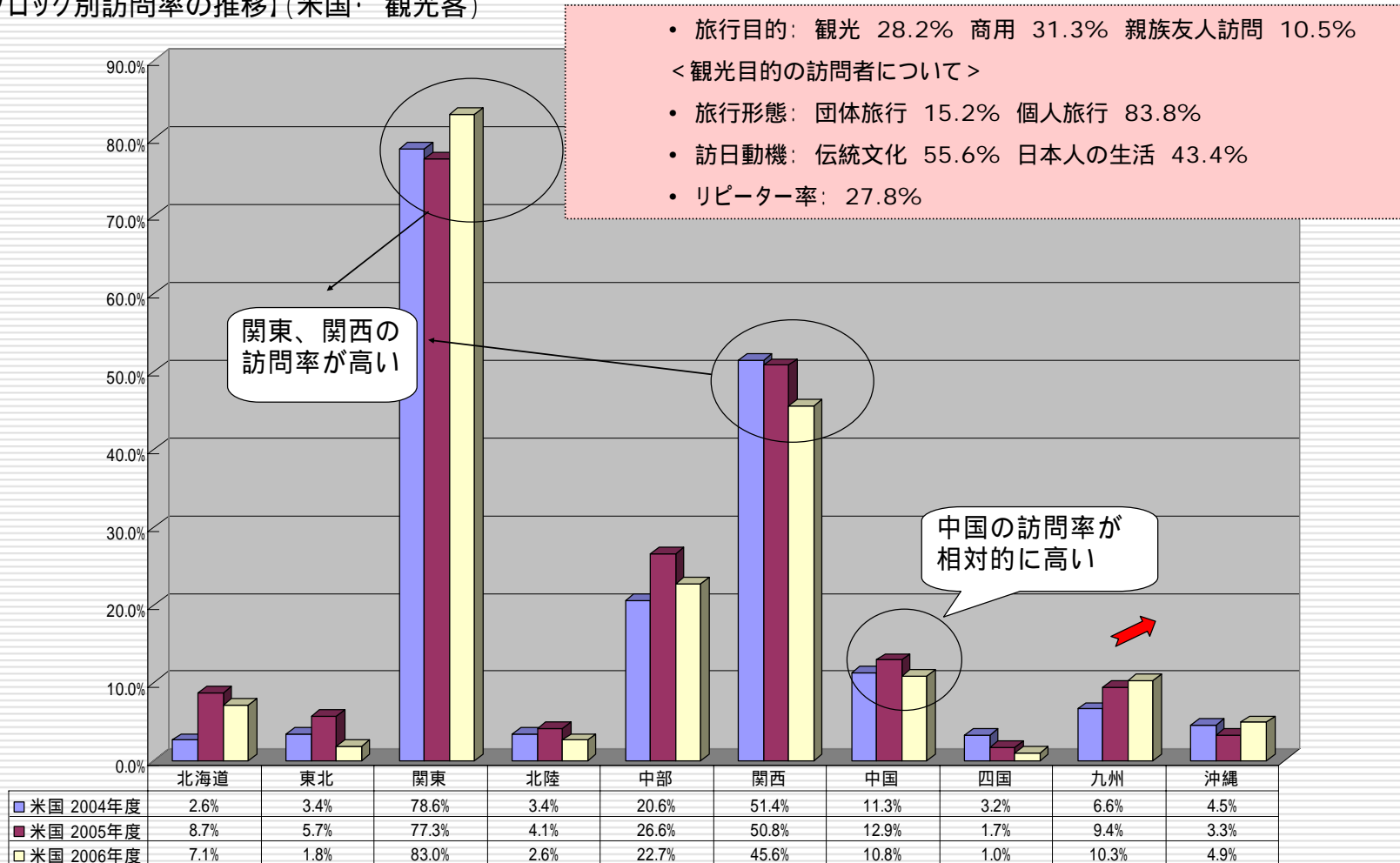
図表11 【ブロック別訪問率の推移】(香港・観光客)

- 旅行目的: 観光 77.3% 商用 11.8% 親族友人訪問 1.6%
- <観光目的の訪問者について>
- 旅行形態: 団体旅行 41.1% 個人旅行 58.6%
- 訪日動機: ショッピング 70.5% 温泉/リラックス 37.1% 食事 32.4%
- リピーター率: 75.0% (居住地別で第1位。約8割がリピーター)



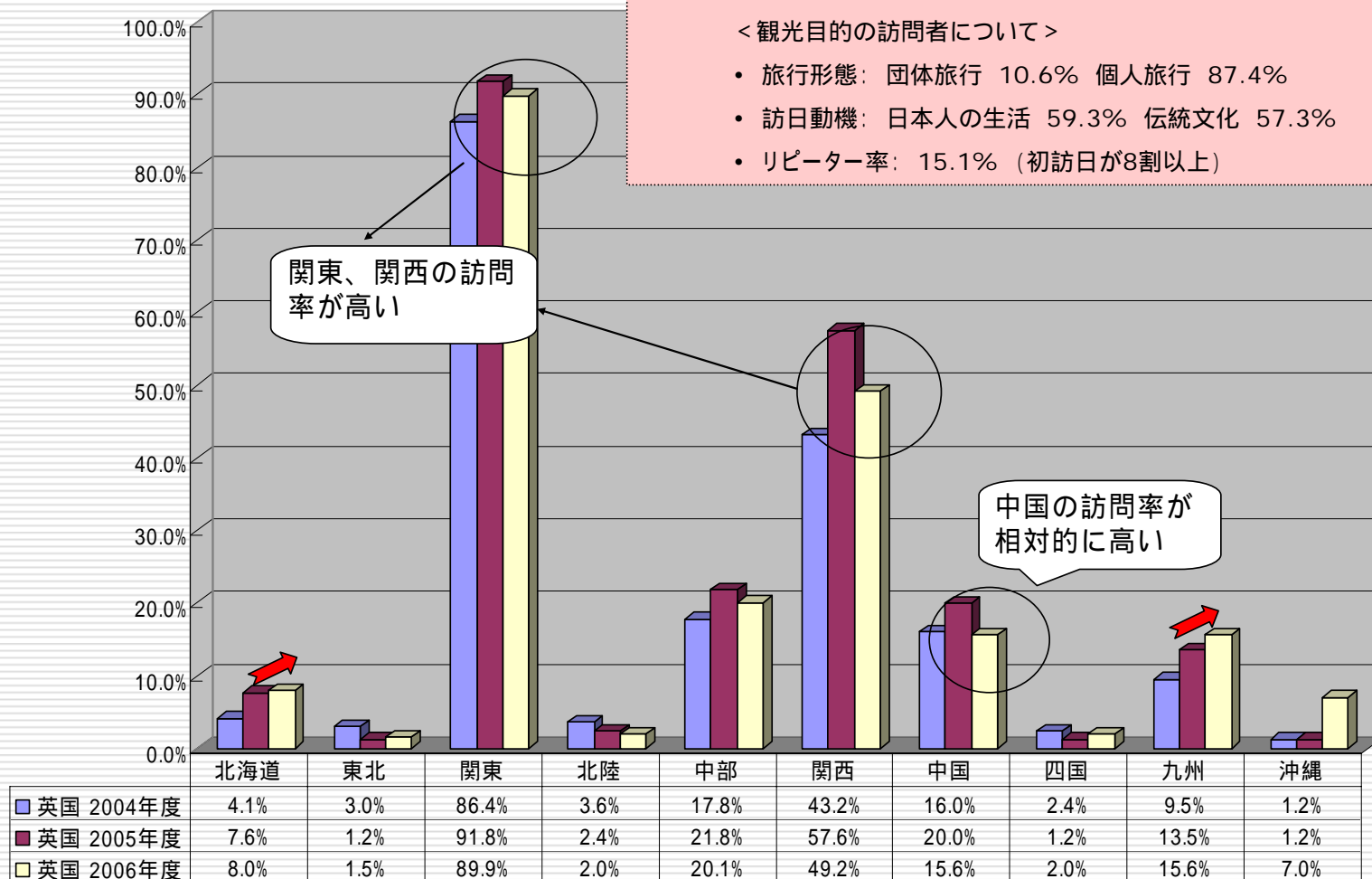
観光客の動向 米国 – 伝統文化・日本人の生活に関心 関西の訪問率は減少傾向

図表12 【ブロック別訪問率の推移】(米国・観光客)



観光客の動向 英国 – 8割が初訪日 個人旅行の割合が9割を占める

図表13 【ブロック別訪問率の推移】(英国・観光客)



- 旅行目的: 観光 35.2% 商用 28.6%、親族友人訪問 6.9%
- <観光目的の訪問者について>
- 旅行形態: 団体旅行 10.6% 個人旅行 87.4%
- 訪日動機: 日本人の生活 59.3% 伝統文化 57.3%
- リピーター率: 15.1% (初訪日が8割以上)